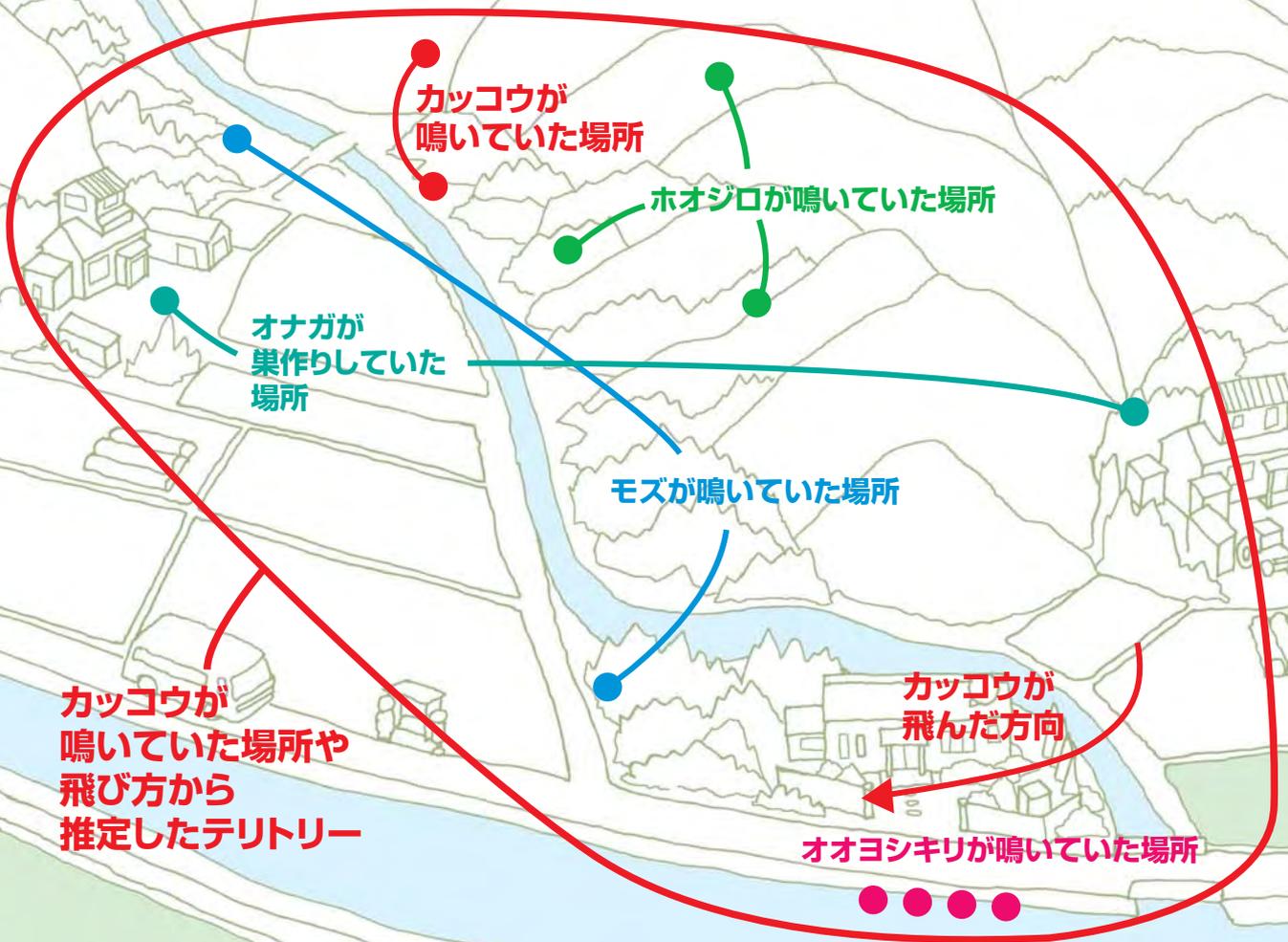


保全の対策を考える

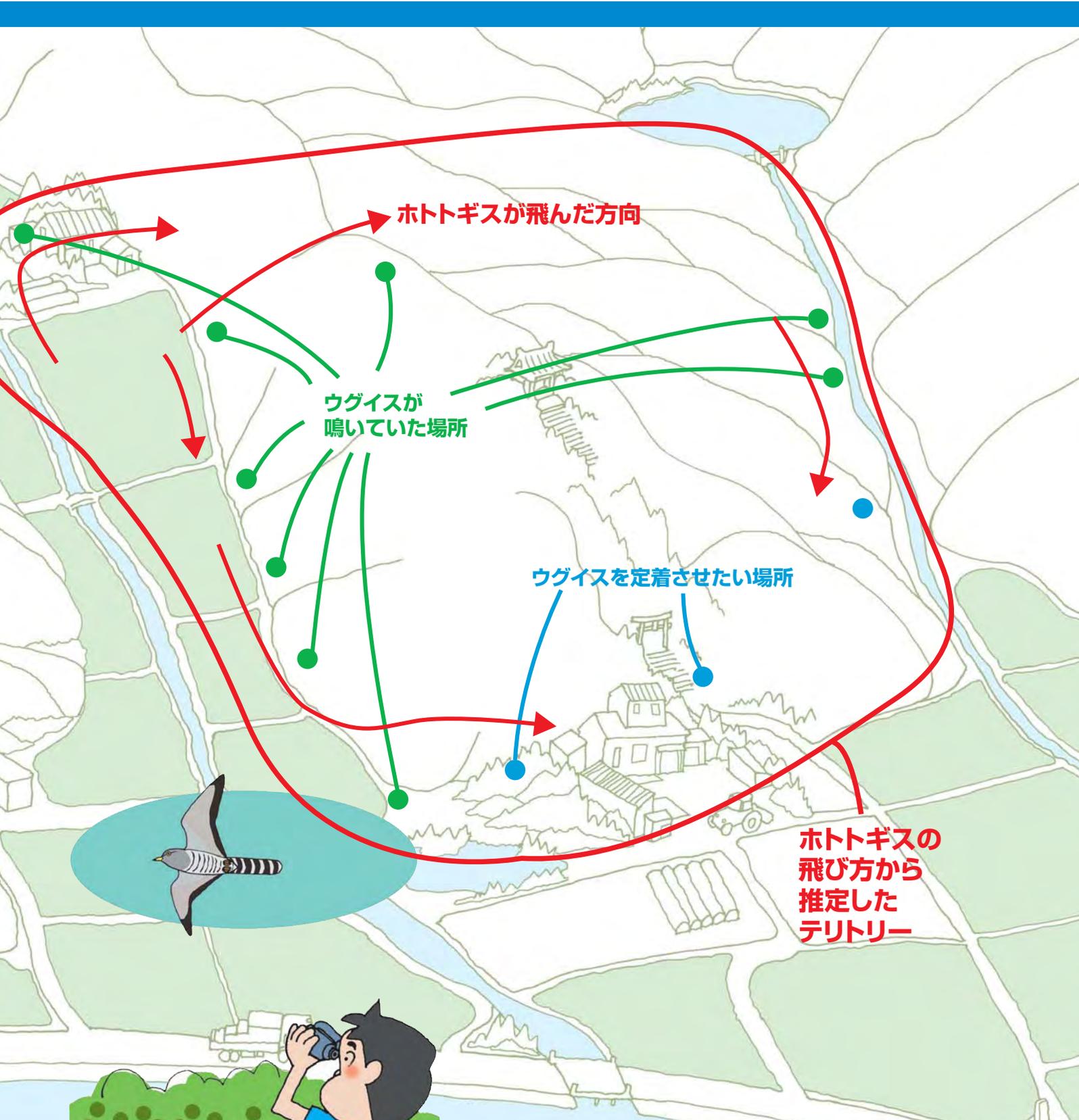
食物連鎖の中位に位置している生きものを保全する

食物連鎖の中位に位置する生きものでも、托卵などの行動をとる種は広いなわばりを持ちます。托卵相手のそれぞれがなわばりを持つからです。こうした生きものを保全するにはテリトリーの大きさを推定し、そのなかになわばりすむ托卵相手の個体数を推定するという方法を取ります。



●カッコウとホトトギスを定着させ、毛虫を食べてもらう

多くの地域では土手のサクラ並木にオビカレハやアメリカシロヒトリが大発生して困っています。これらの害虫はリンゴ、ナシなどの果樹にも発生します。毛虫を食べる鳥の種類は少ないのですが、カッコウやホトトギスはこのような毛虫が大好きです。そこでこれらの鳥を定着させて、オビカレハやアメリカシロヒトリを食べてもらうために、鳥たちが鳴いていた場所や飛んで行った方向などを調べてテリトリーを推定し、鳥たちが巣づくりできる環境づくりについて考えてみましょう。



調査の手順

カッコウはモズ、ホオジロ、オオヨシキリ、オナガに、ホトトギスはウグイスに、それぞれ托卵（卵の世話を他の個体にゆだねる動物の習性のこと）します。そこで里山、谷津田まわり、水路脇などを歩いて、これらの鳥のさえずりなどを聞き、鳴いている場所を地図に書き込んでいきます。

カッコウ、ホトトギス以外のこれらの鳥が鳴いている場所はこれから巣作りをしようとしている場所か、すでに巣作りが始まっている場所です。巣作りが始まっていたら、その場所に近づかないでください。巣を放棄する場合があります。

ホトトギスは飛びながら鳴きますので、飛んでいく方向を地図に落とすと、なわばりの広さがわかります。カッコウについてもこの方法でなわばりの広さを推定します。

次に、このなわばりの中に托卵できる鳥のつがい（ペア）がどれくらいいるか（鳴いている場所が何ヵ所あるか）を調べます。カッコウもホトトギスも托卵相手が十数つがい必要と言われています。もし托卵相手がこの数より少ないなら、それらの鳥が巣作りできる場所を用意します。